

介護研究 特別養護老人ホームで仕事を続けていくために
～介護の質の向上に向けて～

介護福祉士会 中部ブロック
安江 美行 小濱 博美
高田由紀子 山本真佐代

はじめに

介護保険制度の導入により、介護職の活躍の場が増加している反面、離職者の増加も伝えられ、最近新聞の折り込み広告の情報で介護職員の求人をよく見かけるようになった。長く勤められる職場でなければ、介護の内容も低下するのではないか？介護の質の向上や介護の専門性を追求するべく、介護福祉士資格取得の見直しが検討される今日の状況には、現状とのギャップすら感じる。

介護職員が、同じ施設で継続して働くために必要な環境などを明らかにし、職員の定着率を高め、ひいては介護の質の向上につなげていくことを目的として、このテーマについて研究することとした。

対象と方法

【研究対象】特別養護老人ホーム2施設の常勤職員44名

【研究期間】平成19年9月～平成20年3月

【データ収集の方法】アンケート

【データ分析の方法】先行研究資料等を参考に調査結果の分析と考察を行う。

結果

アンケート対象者の属性

Q1:現在の施設での勤続年数は何年ですか？

- 1年未満・・・4人
- 2年～5年・・・18人
- 6年～10年・・・15人
- 11年～20年・・・1人
- 20年以上・・・5人（無記名・・・1人）

Q2:あなたの年齢を教えてください。

- 20歳代・・・18人
- 30歳代以上・・・26人

Q3:あなたの性別を教えてください。

- 20歳代男性・・・4人. 女性・・・14人
- 30歳代以上男性・・・3人. 女性・・・23人

Q4:あなたは、結婚していますか？

- 20歳代既婚・・・2人. 未婚・・・16人
- 30歳代以上既婚・・・14人. 未婚・・・12人

アンケートの設問は大きく3つに分類した。

A・・・労働条件に関するもの(Q7, 8, 9, 10, 11, 12, 13)

B・・・人間関係に関するもの(Q5, 6)

C・・・本人の適性に関するもの(Q14, 15, 16, 17, 18, 19, 20)

設問ごとの結果は、資料2のグラフを参照

考察

私達がアンケートを行った2施設のアンケートの結果から考えてみる(ピアソンの積率相関係数による検定とする)。

Q19:この仕事を辞めたいと思ったことのある人は、20歳代ではややある以上に10名。あると答えた6名と合わせると16名となる。30歳代以上の人ではややある以上に15名。あると答えた7名と合わせると22名となる。

仕事を辞めたいと思ったことのある人の中で、Q10:勤務時間内に休憩が取れますか?との相関係数は

20歳代 -0.120426955 30歳代以上 0.053632271

で、どちらも無相関となっている。

Q12:必要な時(希望する日)に休みが取れますか?との相関係数は

20歳代 -0.07552346 30歳代以上 -0.13723327

で、どちらも無相関となっている。

Q11:休日の日数に満足しているか?との相関係数は

20歳代 -0.292256103 30歳代以上 -0.192153137

で、20歳代ではやや正となるが、30歳以上では無相関となっている。

Q9:夜勤(回数)は多いですか?との相関係数は

20歳代 0.36822847 30歳代以上 0.169156758

で、20歳代ではやや正。30歳代以上では無相関となっている。

Q8:勤務時間外業務はありますか?との相関係数は

20歳代 0.351547071 30歳代以上 0.30626665

で、どちらもやや正となっている。

Q13:給料について満足していますか?との相関係数は、

20歳代 0.17197979 30歳代以上 -0.399921366

で、20歳代では無相関。30歳代以上ではやや負の相関となっている。

仕事の継続「辞めたいと思ったことがありますか」との問いには、辞めたいという気持ちを持ったことがあるという人が多い。辞めたいと思うときには、休みの日数や給料に不満があることだけが原因ではないにしろ、何らかの影響があるということが考えられる。

Q20:今後も現在の施設で働き続けたいと思う人は、20歳代ではややある以上に10名。あると答えた3名と合わせると13名となる。30歳代以上の人ではややある以上に7名。あると答えた12名と合わせると19名となる。

今後も現在の施設で働き続けたいと思う人の中で、Q7:通勤(距離・時間・交通機関の整備)は便利ですか?との相関係数は

20歳代 0.058775882 30歳代以上 0.131495499

で、どちらも無相関となっている。

Q16:体力はありますか?との相関係数は、

20歳代 -0.046442791 30歳代以上 0.172269746

で、どちらも無相関となっている。

Q6:職場の雰囲気(職員間の人間関係)は良いですか?との相関係数は

20歳代 0.058775882 30歳代以上 0.455513771

で、20歳代では無相関、30歳以上ではかなり正となっている。

Q5:職場に相談できる人がいますか?との相関係数は

20歳代 0.387389 30歳代以上 0.455513771

で、20歳代ではやや正。30歳代以上ではかなり正となっている。

Q14:介護の仕事は好きですか?との相関係数は

20歳代 0.480013908 30歳代以上 0.743612665

で、20歳代でかなり正。30歳代以上で強い正となっている。

Q15:利用者に関わることは好きですか?との相関係数は

20歳代 0.480013908 30歳代以上 0.361162197

で、20歳代でかなり正。30歳代以上でやや正となっている。

「今後も現在の施設で働き続けたいと思いますか」との問いには、働き続けたいという気持ちがある。「介護の仕事が好き」特に「利用者に関わるのが好き」という仕事のやりがいを感じているのであろうと思われる。このように「介護が好き」という気持ちが仕事を継続させているのが特徴である。

「仕事上の人間関係」に関しては、「職場に相談できる人がいますか」、「職場の雰囲気は良いですか」との問いに、「良い」との傾向が出ている。今回のアンケートでは、勤続年数2年から10年が圧倒的に多く、最高勤続年数では31年間同じ施設で働いている職員もいることは驚きであった。人間関係や職場の雰囲気が良く、利用者に関わることや、この仕事が好きと思う人が、長く勤続して

いるということが分かる。これらの事から仕事を継続するための条件が自ずから見えてくる。

「この仕事をして良かったと思うこと」とのアンケートの記述の中に、利用者との関わりの楽しさが仕事の生き甲斐となっているとの記述が多くあった。また、自分自身を成長させる仕事である、と介護の仕事のすばらしさも伝わってくる。

結論

今回、アンケート調査に協力いただいた施設では、比較的求人が少なく、職員の定着率が良いと思われる。アンケートの結果から、夜勤や休憩・休日のあり方については、業務の範囲内として理解されているようであるが、時間外勤務が多いことは否めない現状である。生身の人間を相手にする仕事であり、介護を必要とする利用者の多種多様なニーズに対応している結果であろう。

また、職員は人と関わることが好きで利用者からの反応を生き甲斐とし、「楽しい」という思いを持っている人が多い。話せる人がいて、特に 30 歳代以上の職員は職場の人間関係が良いと感じていることが分かる。

職場の環境の良さは、労働条件等と人間関係が影響するが、人間関係が悪いと続かない。介護業務の中でも連携が問われ、最も大切なポイントである。

専門性が求められる現状の中で、より良い介護が実践できる力を身に付け、少しでも働きやすい環境で、プライドを持って働くことが出来たら、人手不足をも解消することにつながるのではないかと考える。そのためにも、労働条件については、仕事に見合った賃金の保障が必要である。

今回、アンケート結果を分析するに当たっては、勤続年数別・年齢別・性別などのデータが少なく、アンケートの間にも曖昧な質問があり、不十分な中での結論となっていると思われ確実な結論を出すことを控えざるを得なかったことを了承いただきたい。

謝辞

今回、介護研究を進めるに当たり、アンケート調査に回答いただいた2施設の皆様には、ご多忙の中、快く協力していただき、深く感謝いたします。

引用・参考文献

* 矢原 隆行著:

「初めての介護研究マニュアル～アイデアから研究発表まで～」2002年 保育社

* 「介護福祉概論」ミネルバア書房

* 「介護福祉士養成施設卒業生の実態報告書平成16年度」日本介護福祉士養成施設協会

* 「介護保険施設など職員アンケート調査」神戸市介護サービス協会